



こころで京を感じるまち

遠州の小京都
森町



静岡県森町観光案内

題字 / 静岡県森町出身 書家 杭迫柏樹



遠州の小京都・森町

三方を自然豊かな山々に囲まれ、
清らかな太田川はさらさらと流れ、
蔵の残る町並みはどこか懐かしい。

由緒あるお宮やお寺も多く、
古くから伝承されてきた舞楽やまつりは、
くらしの中に息づいている。

森山焼、おいしい和菓子と森の茶、
豊かな自然と農の恵みを楽しむ。

ゆったり和やかな雰囲気でおもてなし。
これこそが、「遠州の小京都・森町」である。



森町之賦

峯巒三繞接平蕪

一帯夾河分巷衢

隔水絃歌聲断続

依稀風物小京都

遠州の小京都の由縁とされる森町之賦漢詩詠

三方を山々に囲まれ、南部一帯に平野が広がっている。
帯のように太田川が流れ、左右に賑やかな町並みがある。
三味線や太鼓のお囃子や賑やかな唄が
川の流れを隔てて聞こえてきたり消えたりしている。
その様はどこにでもあふる風情ではない、まさに「小京都」である。

志賀重昂

※志賀重昂は(1863-1927年)日本の美しい風景を世界に知らしめた地理学者です。



An Ode of Mori-machi

Morimachi, a little Kyoto town in Enshu
Enclosed by mountains on three sides
Fresh Stream of Otagawa River
Street with storehouses
Venerable Temples and Shrines
Traditional court music and dance handed down and still alive
Moriyama-yaki pottery, Japanese sweets and green tea
Blessings of nature rich and plentiful



森町之賦石碑／太田川にかかる森川橋のたもとに建立されています。

森町の歴史

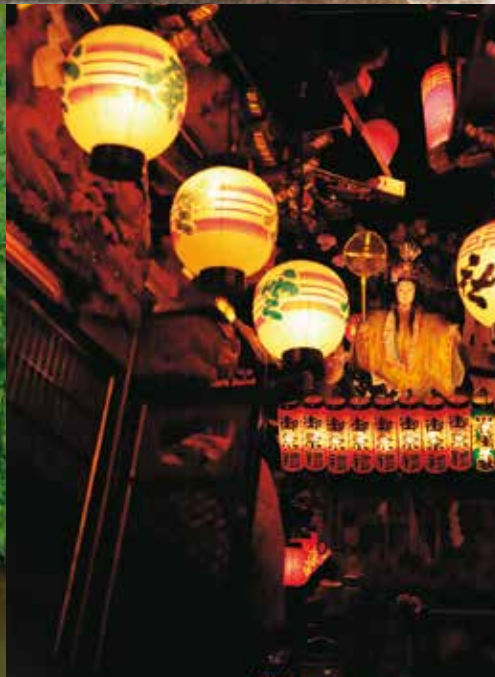
遠州森町は静岡県西部の中山間地にあり、三方を小高い山々に囲まれ、町の中央を清流「太田川」が流れ、どこか京都に似た風情を感じる町。その昔、火伏せの神「秋葉神社」へ通ずる秋葉街道の宿場町として、江戸時代中期から明治時代初期までは「古着の町」として葛飾北斎の「栄える都市の番付」の前頭にその名が掲げられるほどの盛況をみせていました。今も街道脇に残る格子戸の町家や路地裏の土蔵はその時代の名残です。大正十二年（一九二三年）七月、森町を訪れた地理学者「志賀重昂」は山紫水明のこの町を「小京都」と称賛し、以来遠州の小京都と呼ばれるようになりました。

森町の自然と文化

森町の山間部は南アルプス赤石系の南端に連なり、山麓から連なる里山が懐かしい日本の原風景を残しています。太田川の上流の溪谷には「カワセミ」が棲息し、夏には町の中を流れる太田川でも「鮎釣り」が行われ、四季の彩りを川面に映しています。古来よりつづく自然の営みを背景に、「都うつし」の思想を反映してまつられた神社・仏閣も数多く、京都から伝えられた舞楽や祭りは森町に根付き、森町独自の文化を創出してきました。

遠州の小京都まちづくりとおもてなし

平成二十四年（二〇三二年）より全国京都会議に加盟し、現在、遠州の小京都まちづくりがすすめられております。森町を訪れるみなさまが、心に京を感じ和やかな気持ちになれますように、京都にも通じる、まち・人・ものに息づく文化伝統を次代につなぎ、自然の恵み、人の恵みでおもてなしいたします。



悠久の時 古寺古社を巡る 自分探しの旅

大日山金剛院

森町と島田市との境にある大日山金剛院は、行基作の大日如来を本尊として開創されたと伝わっています。明治四十年（一九〇七年）春、火災のために諸堂伽藍がここごとく焼失。幸いに火災を免れた山門は天保八年（一八三七年）の築造で御免大工黒川喜平の自作作とされ、小屋組の部材には、数々の技巧の跡がうかがえます。→
●問い合わせ／電話〇五三・八八・七五三・二〇八三



小國神社

一四五〇年の永い歴史を持ち、老杉繁る参道や境内は、まさに「古代の森の名にふさわしい」荘厳な雰囲気。初詣では、町内はもとより各地から多くの人で賑わいます。春には桜、初夏の花菖蒲、秋の紅葉、初春の梅など、四季を通じて見どころの多い名社です。→
●問い合わせ／電話〇五三・八八・八九・七三〇・二
四月の例祭は、踊指を重要有形民俗文化財に指定された「段舞楽」が舞われます。

許禰神社

創建の年代は明らかではありませんが古より木根棚指村（現在の木根地区）の氏神でありました。森町の北端の三倉を通る秋葉街道沿いに鎮座し、境内には「天下和平不生禍乱（天下泰平の願い）」と記した徳川家康公直筆の碑文があります。→



片吹大日堂

大日堂は、もとは片吹地区の山中にありましたが、太田川ダム建設に伴いかわせみ湖畔に移築されました。堂内には、石棒が安置されており通称「大まる様」とよばれ子授け、安産祈願として秘かな信仰を集めています。→



松岩山蔵雲院

吉川沿いの東岸にある蔵雲院は、天方城主・山内山城守の菩提寺として、境内には天方城主三代の墓があります。崇信寺（森町飯田）五世・助孝・祥佐和尚により開山されました。本尊の虚空蔵菩薩と本堂内の八方睨みの虎画は一見の価値があります。当院の住職であった鈴木俊隆老師はアメリカに禅を広め、著名なIT企業にも影響を与えました。→
●問い合わせ／電話〇五三・八八・八五・二三六



Long established temples and shrines will surely give you new insight

賀茂神社

創祀は、はっきりしていませんが、当地に飯田荘が置かれた頃（十世紀後半）には鎮座したであろうといわれています。京都賀茂上・下両社三神をまつる古社で、文明十九年（一四八七年）に、藤原通信によって奉納された県指定文化財の鯛口を所蔵しています。→



天宮神社

長い石段をのぼると、杉檜の森に囲まれた本殿、拝殿が広がっています。かつてこの神社を参拝した国文学者・佐々木信綱博士が「天の宮神のみ前をかしこみと千歳さくらふなきの大樹は」と詠んだ御神木「なきの大樹」は、東海地方で最も古い「なき」とされています。↓

●問い合わせ／電話〇五三八・八五二二〇〇
四角の例大祭では国指定重要無形民俗文化財の土段舞楽が舞われます。



石松の墓



清水次郎長二十八人衆の人気者 森の石松の墓



なきの大樹

エンゼルススポットとして カップルに人気があります。



鹿苑山香勝寺

香勝寺は天文十四年(一五四五年)崇信寺八世仙伝全忠大和尚によって開山され、本尊の白龍頭観音として信仰されています。六月から九月にかけて、境内に彩りを添えるききょうも見どころです。別名「ききょう寺」

●問い合わせ／電話〇五三八・八五二二〇〇



森測山梅林院

森町の中心部のやや山手に位置するこの寺は鐘楼が見事。今も情緒ある鐘の音が朝夕町内に響き渡ります。境内には、いぼ神様もまつられています。↓

●問い合わせ 電話〇五三八・八五二二九二



山名神社

主祭神は、素戔嗚尊。太田川東岸に鎮座される疫病よけの夏越を行う神社で、京都の祇園社(八坂神社)や愛知県津島神社と同じ神様をまつっています。江戸時代には「牛頭天王社」とよばれ、明治になってから正式に山名神社と称するようになりました。地元の人たちは「飯田の祇園さま」「お天王さま」と親しみを込めて呼んでいます。↓

七月の祇園祭は指定重要無形民俗文化財の八段の舞が舞われます。



山田七郎左衛門

遍照寺の大仏を鑄造した 駿遠西国鑄物師惣大工／山田七郎左衛門 山田七郎左衛門は、徳川家康から「駿遠西国鑄物師惣大工職の朱印状を与えられ、遠江・駿河西国の鑄物師を支配しました。鑄造したものは遍照寺の大日如来坐像のほか、大洞院龍門橋擬宝珠など県内に数多くありました。」

実谷山極楽寺

「極楽のゆく人の乗る紫の雲の色なるあじさいの花」と行基の詠んだ歌そのままに、約一万三千株のあじさいが咲き誇るこの寺は「あじさい寺」とも呼ばれています。↓

●問い合わせ／電話〇五三八・八九七四〇七

庵山の観音様

明治四十年(一九〇七年)九月に、鈴木藤三郎が建立。町指定文化財で延寿観世音と命名されましたが、福川家所有となり後に福寿観世音と改称。青銅造りの観音像で、三体鑄造されたものの一つです。この像の白毫(眉間のホクロ状)は、藤三郎の金のカフスボタンを鑄造して入れたと伝えられています。↓



高平山 遍照寺

町の南、飯田地区の高平山の頂にある遍照寺。境内には、東海地方最大の大きさと讃えられる大仏が座しています。この大仏は森の鑄物師山田七郎左衛門種次の銘もあり、寺の本尊が弘法大師であることから、地元では弘法様として親しまれています。↓



八形山蓮華寺

今から一三〇〇年余の昔、慶雲元年(七〇四年)の創建で、森町で最も古い寺院として知られています。全盛時代には、坊舎が三十六もあり、一宮の社僧でありました。この寺には木喰五行上人晩年の傑作「子安地蔵尊」をはじめ貴重な文化財が数多く伝えられています。また、境内には萩が群生し「はぎの寺」としても知られています。↓

●問い合わせ／電話〇五三八・八五二二〇〇

蓮華寺から大洞院へと続く往古の馬道は歴史の散歩道として整備されています。観音池、みほとけの道、鏡石等が点在。とりわけ見晴台は太平洋、浜松方面が見渡せる絶景のところ。散歩道周辺は、野生植物の説明板も備えられ、手軽に歴史と自然を体験できるハイキングコースとして人気があります。片道約60分



橋谷山大洞院

浪曲でおなじみ、森の石松の墓で知られる大洞院は、全国に三四〇〇余の末寺を持つ東海曹洞禅の名刹です。境内には「消えずの灯明」、「世継ぎのすりこぎ」、「境界の砂」など想仲禅師にまつわる数々の伝説があり「伝説の寺」とも呼ばれ、紅葉の名所にもなっています。↓

●問い合わせ／電話〇五三八・八五二二〇〇



歴史の散歩道

京都から伝承された舞樂や

郷土の伝統行事に

触れる旅

Court music and dance inherited from Kyoto
Traditional events

遠江森町の舞樂

小國神社の十二段舞樂

小國神社例大祭に奉納されるこの舞樂は文武天皇（六九七年〜七〇七年）の時代に中央から伝来したとされており、延舞・色香・庭小鳥・鳥・太平楽・志んま・安摩・二の舞・陵王・抜頭・納蘇利・獅子の十二段が伝承されています。小國神社は遠江國の一宮であり、国家や遠州一円の安泰の祈願として舞樂法会が古くから執行されてきました。

●国指定重要無形民俗文化財 ●とき／四月十八日に近い土・日曜日



鳥



色香

天宮神社の十二段舞樂



太平楽



獅子

山名神社祇園祭の芸能

指南書には摂津国四天王寺から伝来したと記されていますが、応仁の乱以前の京都祇園御霊会に舞われた芸能を室町時代、永正の初め頃（一五〇四年〜）に遠州宇刈郷西樂寺が執行する祇園会に取り入れられたものと考えられています。全八段の舞はいずれも見応えがあり、祭礼に曳かれる屋台と併せて賑やかな雰囲気楽しむことができます。

●国指定重要無形民俗文化財 ●とき／七月十五日に近い土・日曜日



蟬螂



優填獅子

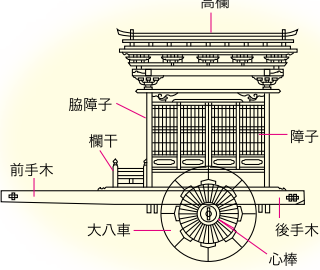
天宮神社例大祭に奉納される十二段舞樂は、小國神社と同じく文武天皇の時代に伝承されたとき、小國神社と共通の曲目が伝承されています。小國神社の舞樂道具は明治十五年（一八八二年）にほぼ焼失したため、古い面、装束は天宮神社だけに伝わっています。また、天正十八年（一五九〇年）の御祭目に若者の掬が記されており、以来、祭礼の全てを若衆の組織である「天社殿」により運営されています。

●国指定重要無形民俗文化財 ●とき／四月第一土・日曜日



練り

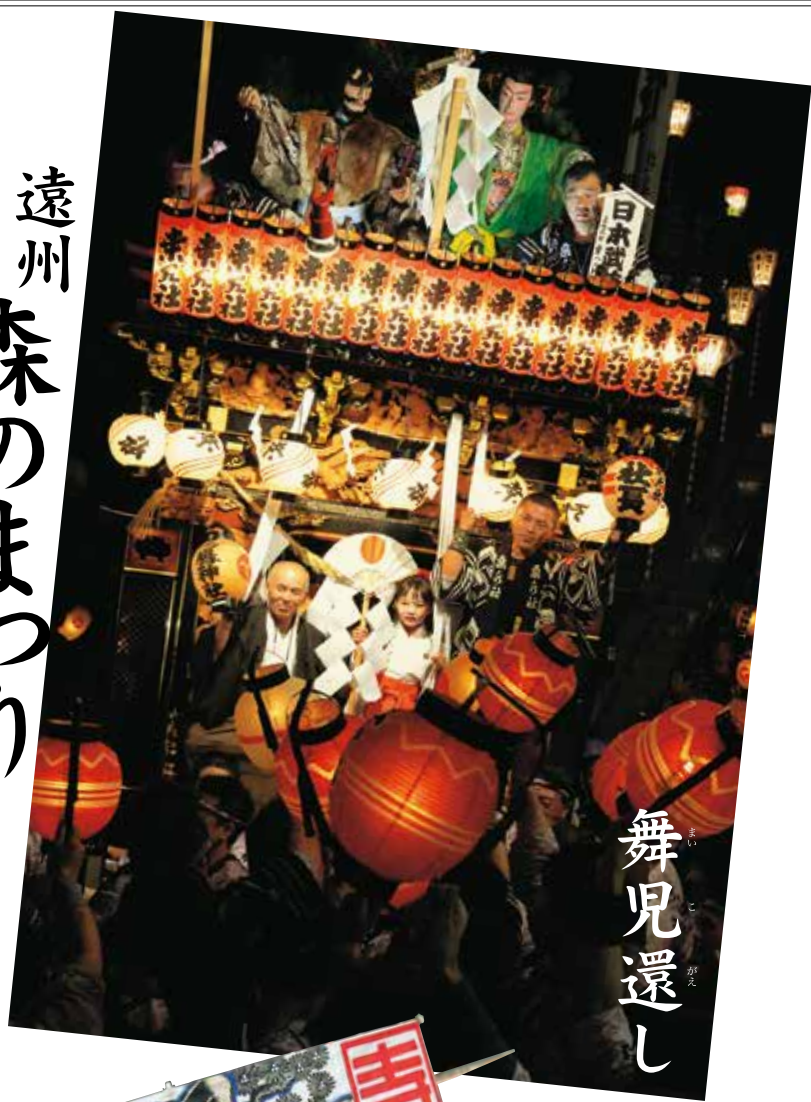
森の祭屋台の
意匠と主な名称



遠州 森のまつり

江戸時代から続く、遠州路最後を飾る秋祭りであり、華やかな彫刻を施した十四台の二輪屋台が曳き廻されます。伝統の祭囃子が奏でられるなか、夜には屋台どうしの激しい「練り」が行なわれます。最終日の夕方、若衆や氏子がこぞって、神社に奉仕した舞児を各町内の自宅まで送る「舞児還し」の神事により、森の祭りは最高潮に達します。

●とき／十一月第一金・土・日曜日
●見どころ／舞児還し 最終日の午後六時〜
(三島神社境内)



舞児還し

田能蔵泉寺 大般若経

南北朝永徳四年(三八四年)〜嘉慶元年(三八七年)に写経された(〇〇巻の大般若経が残され、県の文化財に指定されています。大般若経は災いを除き、天下太平・国土安寧などに効力があると信じられ、毎年冬と夏に大般若経の転読が行われ、疫病退散を祈ります。

●とき／一月十五日・八月一日



大洞院餅焼き

大洞院の開山以来の「消えずの灯明」の火を元火にして、伝統の餅焼きの行事が行われます。この餅を食べると一年間無病息災で過ごせると伝えられ、元日より三日間、大勢の参拝客が訪れ、囲炉裏の炭でお餅を焼きながら祈願して食します。

●とき／一月一日(元日)〜三日



森のぶか凧

森のぶか凧は、横幅が広く、二本の糸目をつけて安定したところを一本でまどめて揚げるのが特徴です。五月の端午の節句に合わせて、町内の子ども誕生祝いに若衆たちによって造られ、勇壮な絵柄を描きます。五月晴れの太田川で若衆たちによって太鼓や笛の音にはやされ元気に凧揚げが行われます。

●とき／五月五日(太田川森川橋・森大橋付近)



本立寺鬼子母神祭

日蓮宗のお寺で、安産、子育て祈願、そして命名で有名。お命講の寺、飯田鬼子母神として知られ、毎年晩秋の鬼子母神祭には、参道に多くの出店が並び、祈願の参拝客で大変賑わいます。昔から、お命講の寒ざらしと言われ、この辺りから寒さが厳しくなり、冬の到来を感じさせられます。

●とき／十一月十二日(本立寺境内)



小國神社田遊び

鎌倉時代中期の創始といわれ、五穀豊穡、氏子の安全を祈願し全十二段の構成で田植え前までの行事を予祝します。旧社家の人々によって伝承される国の記録選択の民俗文化財。現在祭典は拝殿、行事は舞殿で行われます。

●とき／一月三日(小國神社境内)

石松まつり (石松供養祭)

大洞院には石松の墓があり、三年に一度「石松まつり」として、森の石松や清水次郎長一家に扮した「石松道中」が町内から大洞院までを仮装行列で練り歩きます。供養祭は毎年行われます。

●とき／三月下旬(日曜日)



懐かしい里山の風景

ほっとする

こころの旅

友田家住宅

町中心部より吉川沿いに十三キロほど上流にある友田家は、平家の落人としてこの地に移って以来の旧家。現在残っている家は三〇〇年前の江戸期元禄年間（十八世紀の初め）に建てられたもので、その構造は「片喰違い型」と呼ばれています。「狼よけ」などの珍しい格子も見る、ことができます。

●問い合わせ／電話〇五三八・八七〇・三三

吉川溪谷

吉川の上流部は川が岩の谷間を流れる溪谷になっており、水辺の鳥「カワセミ」や溪流魚「アマゴ」も棲息しています。特に新緑や紅葉の美しさはすばらしく、友田家付近の「銚子の淵」などは森町の自然が色濃く残されています。

川遊び

太田川上流の吉川、三倉川は特に水質が清らかで、瀬や淵、岩場などの変化に富んでいることから、夏には川遊び、バーベキュー、秋には紅葉などが楽しめる、身近なアウトドアライフ体験ゾーンとして人気を集めています。

大河内清流

やまめの里

川の水を引き込んだ本格的な釣り堀。二つの池からなり、ヤマメ、イワナなどが釣れます。

●問い合わせ／やまめの里

電話〇五三八・八六〇・五八八

かわせみ湖

かわせみ湖は多目的ダムとして作られた太田川ダム湖です。湖の周辺には休憩所や気軽に歩ける散策コースが整備されています。パノラマビューの展望台「彩り岬」や江戸時代から信仰されてきた地域信仰の神大まる様がある「片吹の郷」自然観察のできる湖畔広場や野鳥観察エリア、学習の森などがあります。

A tranquil woodland landscape
You will feel at home away from home

鮎釣り



太田川とその支流の吉川、三倉川は鮎釣りの漁場として知られ、六月から九月頃までのシーズン中には、県内外から多くの釣り人が訪れます。町の中心部を流れる太田川では、市街地付近でも友釣りが可能。いっぽう吉川と三倉川は美しい渓谷に囲まれての鮎釣りが楽しめます。

●問い合わせ／太田川漁協
電話〇五三・八五三・〇八〇
太田川鮎釣り解禁日／六月一日
吉川・三倉川鮎釣り解禁日／六月二十五日

半夏生の群生

吉川の上流部の鍛冶島地区は全国でも希少な半夏生の自生地です。静岡県内最大の群生地です。周辺は貴重な自然が残る里山で、見学の遊歩道も整備されています。半夏生は、どくだみ科の植物で、開花とともに、葉の約半分が白くなるという特徴があります。●見頃は、六月中旬から7月下旬



コテージ・アクティ
手づくりそばほつとり
四棟八室の宿泊施設があり、調理器具も完備。ほつとりでは、そば打ち体験で自分で打ったそばも食べられます。

●問い合わせ／(株)アマガタ
電話〇五三・八五三・九八〇〇



町民の森

自然の中で心身体養できる憩いの場として整備された町民の森。四十ヘクタールもの広大な敷地では四季折々の山野草の觀賞や探鳥が楽しめます。



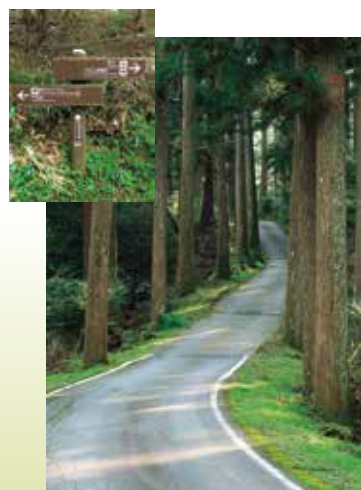
町の鳥カワセミ

平成七年（一九九五年）に町の鳥として選定。その姿が極めて美しく水環境のシンボルとして希求されている鳥で、かわせみ湖や、太田川水系の清流などに棲息しています。



東海自然歩道

森町管内のコースは、大目山金剛院から春登山大光寺を結ぶ約四・五キロの自然歩道です。樹齢百年余の杉並木がうっそうと茂り、途中で富士山なども眺められます。野鳥の声を聞きながらの森林浴などが満喫でき、四季を通じて自然に親しむハイキングができるように整備されています。



戦国夢街道 ハイキング コース

戦国時代、徳川家康と武田軍が激しい合戦を繰りひろげ、それによつて三倉地区。この地はかつて「秋葉街道」、「塩の道」が交差し、多くの旅人でたいへん賑わいました。四季の自然に親しみながら歴史を堪能できるウォーキングコースです。

- 半命コース／四・五キロ
- 三丸コース／五・五キロ
- 塩の道コース／八・五キロ



吉川キャンプ場カワセミの里

5棟のバンガローと貸出しテントが利用できるキャンプ場。テントを持ち込んでの宿泊も可能。

●問い合わせ／カワセミの里 電話 0538-85-9800



森町サイクリング

アクティ森と天竜浜名湖線遠州森駅ではレンタサイクルの貸し出しをしています。e-bikeなら坂道もらくらく！森町を気軽にサイクリングしてみませんか。
(貸し出し自転車／e-bike(電動アシスト付自転車)・MTB(マウンテンバイク)・普通自転車など)

歴史の街道めぐり 先人の暮らし

歩き観の旅



城下の町並み

藤江家をはじめ見応えのある民家が残る城下の町並みは、上から見るとノコギリの歯のように見えます。敵が来るのを待ち伏せするためにできたという伝承がありますが、実際は曲線の自然堤防の上に作られたので、隣の家と少しずつずらして作らざるを得なかったとされています。↑



秋葉山常夜灯

江戸時代後期、伊勢参りや上方見物が盛んとなり、これに乗じて秋葉詣での宿場町森町も大変賑わいました。町内の北戸綿、城下、大門、黒石、黒田など各村には必ず一基の常夜灯が建てられ、今でも夕方になると火への感謝と火防を念じて灯りがともされます。↑



旧城下学校

明治十七年（一八八四年）建設された城下学校は、現存する数少ない木造の校舎で旧見付学校、旧岩科学校に続き、静岡県内に残る三番目に古い学校建築です。↑



Historical streets with traditional storehouses will invite you into the lives of our ancestors



福川泉吾・鈴木藤三郎

偉業記念碑

森町の実業家「福川泉吾」と氷砂糖を
発明した起業家「鈴木藤三郎」は明治
時代、地域発展のため巨万の私財を投
じ全国的にも稀な私立周智農林学校
(現遠江総合高等学校)を創設。その偉
業を讃えた記念碑、鏡像などが旧周智
高等学校跡地に整備されています。←



本町の町並み

江戸時代に火防の神「秋葉山」の参詣道として多くの旅人が往来した秋葉街道沿いにある本町の町並みは、連子格子や鏝破目の板張りなど伝統的な建築で古着商や旅籠など、江戸時代後期からの建物が点在し裏通りには往時の土蔵が残り宿場町の趣を残しています。←



天竜浜名湖鉄道

遠州森駅

掛川から新所原(湖西市)間を走るローカル線の森町の玄関口、懐かしい木造の遠州森駅や遠江(宮駅)、太田川橋梁は国の登録有形文化財です。↓



遠州森駅

町並みと蔵展

秋葉街道の面影を残す旧家や古い蔵、商店などを開放し、地元の歴史資料、絵画、古民具などの展示や地場産品の販売、テーマを決めた講演会などが行われ、毎年春と秋に開催されている町民の手づくりイベントです。



桜御前の碑

今から八五〇年ほどの昔平安の都に鳥羽上皇の后に仕えたという藤原頼長の娘がいました。その娘は、宮中の才色兼備で、藤原成範(桜町中納言)との間に小督局(高倉天皇側室)をもうけましたが、政変の難により諸国遍歴の末、蓮華寺を頼つて、森小学校のあたりに庵を結び、桜御前と称されたといわれ、その後生涯を森町で過ごしたと伝えられます。



治郎柿(次郎柿)原木

甘柿の代表種「治郎柿(次郎柿)」は、遠州森町原産です。治郎柿の誕生は、江戸後期の弘化年間(一八四四年)一八四七年頃、森町村五軒丁の「松本治郎」が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのがはじまりといわれています。



江間家土蔵

(旧天宮神社主中村家分家)
当家は、天宮神社主中村左京の分家で、茶商や製糸を業としてきましたが、十代目の豊子は、江間保(軍人空母瑞鶴攻撃隊長等)と結婚し当家を継ぎました。土蔵は、明治二十五年(一八九二年)に七代目源五郎が建てたもので、現在一階を展示室として、特別展の時に公開しています。←
●問い合わせ/電話〇五三八・八五・二二



歴史民俗資料館

明治十八年(一八八五年)建築の周智郡役所を移築した資料館です。当時の外観のままに復元された、町立歴史民俗資料館は、館内に入ると昔にタイムスリップしたようです。展示品は、農耕具や生活用品、古文書などがあり、森町の歴史と生活文化の変遷がひと目で理解できます。←
●問い合わせ/電話〇五三八・八五・〇〇八
休館日/月曜日・火曜日・年末年始 入館料/無料



城跡めぐり

天方城跡
戦国時代、武田、徳川の攻防戦が繰り広げられた天正時代(1573~1593年)頃の陣城で、城跡は公園として整備されています。山頂の展望台からははるか遠く、太平洋や南アルプス、遠州一円も眺められます。



飯田城跡

飯田城は、太田川東岸に飯田城主三代目山内通泰が居城した城跡で、本丸・二ノ丸・北郭堀切などからなり、地元では本城と呼ばれています。この城の北方に所在する崇信寺境内を旧城とし、山内道美・同久通下って通泰の三代が飯田を領有したことが知られています。

春夏秋冬 森町 ぐるっと 花めぐり

寺社の境内に、里山や川沿いに咲く
春夏秋冬、森町ぐるっと花めぐり。



はなしょうぶ



一宮花菖蒲園



はぎ



あじさい



Seasonal flowers

ききょう



十七夜の大藤



うめ



ゆり



はなげしょう



太田川桜堤



さくら

■つづ

森町の桜の見どころといえば、小國神社の宮川沿い、天宮神社の境内、太田川桜堤が特に有名です。
●見頃／三月下旬～四月上旬

■ふじ

金守神社境内にある樹齢数百年の楠の大木に大蛇のように巻き付いている「十七夜の大藤」初夏には藤の花で覆い尽くされます。
●見頃／四月下旬～五月上旬

■はなしょうぶ

小國神社の花菖蒲園では約八〇種類、八万本が咲き乱れ、園内を歩いて観賞できます。
●見頃／開園（五月上旬～六月下旬）

■あじさい

極楽寺の境内には、参道から裏山まで、約万二千株の色とりどりのあじさいが群生しています。
●見頃／開園（六月上旬～七月上旬）

■ききょう

半夏生は、花の時期に葉の部が白く染まるという不思議な特徴を持ったトクダミ科の植物です。
●見頃／（六月中旬～七月下旬）

■はなげしょう

日本三大ききょう寺でもある香勝寺のききょうは、白龍頭観音のお告げにより植えられたといわれ、境内に花開く四万株以上のききょうが見事です。
●見頃／十月～月

■さざんか

晩秋から冬、町内のあちこちで花開くさざんかは森町の木、アケティ森では、赤、白のとりわけ見事な花が見られます。
●見頃／十月～月

森町花めぐりカレンダー

花名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
サザンカ												
ツバキ												
ウメ												
サクラ												
フジ												
シャガ												
シャクナゲ												
ハナショウブ												
ハギ												
アジサイ												
ハンゲショウ												
キキョウ												
ユリ												
モミジ												

■はぎ

蓮華寺の境内では、初夏から秋にかけて、さまざまな萩が咲き競い、はぎの寺と呼ぶにふさわしい趣です。
●見頃／六月～九月

■ゆり

吉川や三倉川沿いをはじめ、町内の山中に自生しており、ひととき優雅な白い花を咲かせます。森町の花
●見頃／七月中旬～八月

■しゃくなげ

草木の帝王とよばれ、本来は高山や寒い所に咲くしゃくなげ。天宮神社、小國神社の境内にも、随所に赤や白のしゃくなげの花が見られます。
●見頃／春から初夏

■うめ

小國神社の梅園には紅白の梅の花が春を告げます。
●見頃／一月中旬～三月中旬

■さくら

小國神社／電話〇五三八・八九・七三〇二
天宮神社／電話〇五三八・八五・五五四四

■あじさい

極楽寺／電話〇五三八・八九・七四〇七
香勝寺／電話〇五三八・八五・三六三〇

炎の匠 陶芸の里めぐり

静岡県の郷土工芸品

森山焼



Enjoy the art of
Moriyama-yaki Pottery

先代が生み出した至難の技と言われる
赤の表現にこだわり赤焼を得意とする

静邨陶房

●問い合わせ／

電話〇五三八・八五・三三三六



明治44年(1911年)、中村秀吉氏によって創始され、今日に至っている静岡県内で最も大きな窯場、森山焼は小堀遠州七窯のひとつである志戸呂焼の流れをくみ、作風は「炎の芸術」と呼ぶにふさわしい趣で知られています。現在、閑静な森山の麓周辺に中村陶房・静邨陶房・晴山陶房・田米陶房の4軒の窯元があり、それぞれの陶房独特の作品を創作しています。散策をかねてのんびり陶房を訪ねてみてはいかがでしょうか。

素朴な味わいと

豊かな芸術性を備えた焼き物を作り出す

中村陶房

●問い合わせ／電話〇五三八・八五・四六一二



日本的な素朴さやぬくもりを民芸的に表現する

晴山陶房

●問い合わせ／電話〇五三八・八五・三三八一



故松井晴山

芸術性に富んだ作品で
手作りのぬくもりを表す

田米陶房

(みもる焼)

●問い合わせ／
電話〇五三八・八九・六〇三三



森山焼周辺案内図



健康長寿の里 急須でお茶を飲む町

森町は「森の石松」とともに「上級茶の産地」として知られています。森山焼をはじめ数軒の茶器を造る陶房もあります。梅衣に代表される和菓子のお店も多く、森町にはゆづりとお茶を楽しむ「ころ和む時間」が流れています。また、静岡県「お達者度」厚壽軒等による「森から平均年齢」平成二十七年の発表で森町が男女とも、第一位に。その要因のひとつに「緑茶」をよく飲むという生活習慣が考えられています。森町では「健康長寿の里」を目指し、お茶の町として「急須でお茶を飲む町づくり」を進めています。





清流吉川のほとり
森町をまるごと体験

森町体験の里
アクティ森

Acty Mori, a rural cultural village



吉川和紙体験
・手すき和紙
・葉すき和紙 など



陶芸体験
・絵付け
・手ひねり
・電動ろくろ



遠州鬼瓦体験
・鬼瓦づくり
・瓦の焼きもの など



草木染体験
・ハンカチ
・Tシャツ など

陶芸体験／電動ろくろ



特産物販売所 (森のよんな市)



森のレストラン
「かわせみ」



水辺のバターゴルフ

クラブハウス (受付)

■**陶芸体験**
広い陶芸体験室で、素焼きの湯飲みへの「絵付け」から、粘土から湯飲み、皿などを作る「手ひねり」、本格的な「電動ろくろ」まで、多彩な陶芸の楽しさを存分に体験できます。

■**吉川和紙体験**
吉川沿いに昔から伝わる「手すき和紙」をはじめ、四季の草花をすき込む「葉すき和紙」などを体験できます。

■**遠州鬼瓦体験**
遠州瓦の製法で「鬼瓦づくり」に挑戦。手軽な鬼面などの「瓦の焼きもの」も楽しめます。

■**草木染体験**
お茶、栗、レタス、メロンなどの森町特産の植物を用いて、オリジナルのハンカチ、Tシャツを染めあげましょう。

■**水辺のバターゴルフ**
吉川の岸辺に沿ってレイアウトされた十八ホール・パー七十二の総天然芝のバターゴルフコース。人気のグランドゴルフも整備。

■**テニスコート**
のどかな自然を背景とした全天候型の砂入り人工芝テニスコート二面。

■**カヌー**
清流吉川の澄みきった水と木々からこぼれる日差しの中でのカヌー体験です。講師が乗り方の指導をしますので初心者の方でも気軽に楽しむことができます。

■**レンタルMTB**
アクティ森をスタート地点に、MTBマシンやe-bike電動アシスト自転車などで自然豊かな森町めぐりを楽しんでください。

■**森のレストラン「かわせみ」**
地元で採れる食材をふんだんに味わえるアットホームなレストラン。窓越しに緑の山々を眺めながら、自然の恵みを満喫してください。

■**特産物販売所**

●**森のよんな市**
森町をはじめ、遠州地方の名産や特産をたくさん集めました。中でもアクティ森内で地元のお母さん達が作る「森のあいすくりーむ工房」の手作りアイスは大人気です。

●**山里の市**
地元で採れた新鮮な野菜など農家の方が持ち寄る農産物を豊富に取りそろえています。また、地元のお母さん達の自慢の手づくりこんにやくや煮豆、おにぎりなども販売しています。

●**問い合わせ／電話**〇五三八・八五〇二五
●**開場時間**／午前九時～午後五時三〇分
(十二月～二月は午後五時まで)

※山里の市は午前八時三〇分～午後四時三〇分
●**休場日**／水曜日(祝日の場合は営業)
春・夏休み期間・無休
年末年始(十二月二十七日～一月一日)



森町の自然や 匠の技が育んだ とれたて手づくりの 特産品



遠州森の茶



和菓子



特産加工食品



お米



スイートコーン



レタス



Specialty Products

森の茶園

治郎柿 (次郎柿)

■農産物
豊かな自然と温暖な気候に恵まれた森町では、レタスなどの新鮮な野菜をはじめ、お米、しいたけ、スイートコーン、メロン、自然薯など、季節ごとにさまざまな農産物が収穫されています。

■遠州森の茶
清らかな水と山間の霧など、恵まれた自然条件のもとで栽培される森のお茶は、銘茶産地ならではの自然の香りを大切にした味わいが好評です。町内には個性あふれるお茶の老舗や直売店がたくさんあります。

■和菓子
梅衣、治郎柿羊かん、「みそまんじゅう」、栗むし羊かんなど、森町には和菓子の老舗が多く、種類も豊富で味わいもバラエティに富んでいます。

■特産加工食品
地元産の新鮮な食材をもとに、永年培った技術をいかして、甘酒、惣菜、手作りハム、ワインなど、森町らしさあふれるおいしさ、なつかしい味を作りあげています。

■治郎柿 (次郎柿)
森町が原産の治郎柿は、今から約一七〇年ほど前、松本治郎という人が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのがはじまりといわれ、その原木が今も町内に残されています。森町産の極上治郎柿は、毎年秋、皇室に献上されることでも知られています。

■治郎柿 (次郎柿) 原木
森町が原産の治郎柿は、今から約一七〇年ほど前、松本治郎という人が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのがはじまりといわれ、その原木が今も町内に残されています。森町産の極上治郎柿は、毎年秋、皇室に献上されることでも知られています。

■治郎柿 (次郎柿) 原木
森町が原産の治郎柿は、今から約一七〇年ほど前、松本治郎という人が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのがはじまりといわれ、その原木が今も町内に残されています。森町産の極上治郎柿は、毎年秋、皇室に献上されることでも知られています。

■治郎柿 (次郎柿) 原木
森町が原産の治郎柿は、今から約一七〇年ほど前、松本治郎という人が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのがはじまりといわれ、その原木が今も町内に残されています。森町産の極上治郎柿は、毎年秋、皇室に献上されることでも知られています。

■治郎柿 (次郎柿) 原木
森町が原産の治郎柿は、今から約一七〇年ほど前、松本治郎という人が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのがはじまりといわれ、その原木が今も町内に残されています。森町産の極上治郎柿は、毎年秋、皇室に献上されることでも知られています。

■治郎柿 (次郎柿) 原木
森町が原産の治郎柿は、今から約一七〇年ほど前、松本治郎という人が太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのがはじまりといわれ、その原木が今も町内に残されています。森町産の極上治郎柿は、毎年秋、皇室に献上されることでも知られています。

森町の歳時記

Four seasons celebrations

春



- 3月 (弥生)
石松まつり (3年に一度) と
石松供養祭 / 下旬
- 4月 (卯月)
天宮神社例大祭 / 第1土・日曜日
小國神社桜まつり / 上旬
小國神社例祭 / 18日に近い土・日曜日
- 5月 (皐月)
ぶか風揚げ (太田川河川敷) / 5日

夏



- 6月 (水無月)
太田川鮎つり解禁 / 1日
小國神社花菖蒲まつり / 第1日曜日
吉川・三倉川鮎つり解禁 / 25日
香勝寺 桔梗 / 中旬~7月下旬
極楽寺あじさいまつり / 上旬~7月上旬
- 7月 (文月)
山名神社天王祭 / 15日に近い土・日曜日
きゅうり祈禱 (大日山金剛院) / 土用の丑の日
- 8月 (葉月)
納涼花火大会 (太田川河川敷) / 15日

秋



- 9月 (長月)
萩まつり (蓮華寺) / 第3日曜日
柴灯護摩祈禱 (大日山金剛院) / 27日
- 11月 (霜月)
森のまつり / 第1金曜日~日曜日
本立寺お命講 / 12日
もりもり2万人まつり&農協祭 / 中旬
大洞院紅葉祭 / 下旬
小國神社紅葉祭 / 下旬

冬



- 12月 (師走)
除夜の鐘 (大洞院)
- 1月 (睦月)
初詣で (各神社ほか)
大洞院餅焼き / 1日~3日
田遊び (小國神社) / 3日
- 2月 (如月)
節分祭 (小國神社) / 3日

遠州森町の案内

交通アクセス

●お車をご利用の場合

- 新東名遠州森町スマートIC (約3km)
- 新東名森掛川IC (約3km) → 森町
- 東名袋井IC (約10km)

- 天竜浜名湖鉄道遠州森駅 TEL (0538) 85-2211
- 秋葉バスサービス TEL (0538) 85-2141
- 町営バス(予約) TEL (0538) 85-9800
- 新幹線(こだま)ご利用の場合

- 新大阪 (2時間30分) → 掛川駅 → 遠州森駅
- 東京 (1時間50分) → 掛川駅 → 遠州森駅

●秋葉バスをご利用の場合

- 天竜浜名湖鉄道 (25分)
- <遠州森町行・気多行>
- 袋井駅 (35分) → 遠州森町

森町の宿

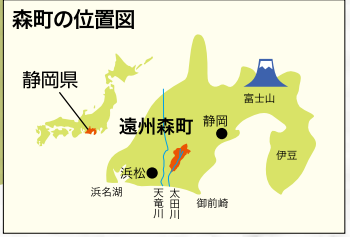
- コテージ・アクティほっとり TEL (0538) 85-9800
- 森町問詰879-5 (アクティ森前)

ゴルフ場

- 葛城ゴルフ倶楽部 TEL (0538) 48-6111
- ザ・フォレストカントリークラブ TEL (0538) 85-4141
- 三木の里カントリークラブ TEL (0538) 89-0020



- レンタサイクル貸出し所
- 天竜浜名湖鉄道 遠州森駅
- TEL (0538) 85-2211



●森町観光ボランティアガイド
 森町の観光をみなさんと楽しく会話しながらガイドしていきます。
 お問い合わせ、お申し込みは
 森町観光協会 / TEL (0538) 85-6316



静岡県森町役場産業課 森町観光協会

〒437-0215 静岡県周智郡森町森 2101-1 TEL 0538-85-6316
<https://www.town.morimachi.shizuoka.jp> <https://mori-kanko.jp>

Mori-machi Tourist Association The Commerce and industry Section Office 2101-1 Mori,Mori-Machi,Shuchi-gun Shizuoka-ken,437-0215

